

A panel discussion on nutraceutical approach to health and disease

肝炎編 Hepatitis

ウイルス性肝炎の複雑な治療に及ぼすバイオ・ノーマライザーのような免疫調整剤の使用について



メレストリャノフ教授 医師 医学博士
(ロシア)

ロシア高等医学教育大学 副学長
高等医学教育大学観戦商学部 部長
ロシア感染症学会理事長
ウイルス性疾患患者の医薬品とニュートラシューティカルにモスクワ政府顧問代表

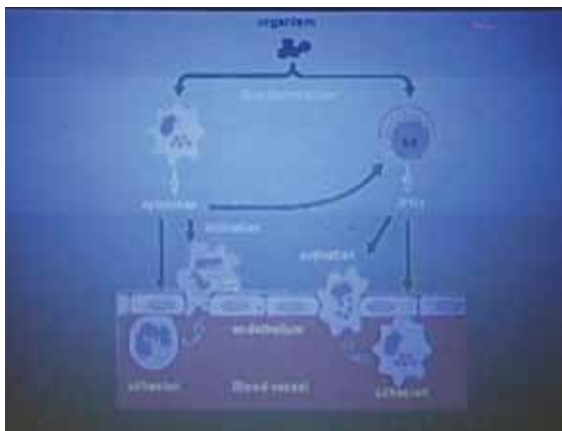
ウイルス性肝炎の複雑な治療におけるバイオ・ノーマライザーのような免疫調整剤の使用

多くの専門家が、次の千年紀においても人類は感染症と闘い続けなくてはならないと言っています。感染症など中世の病気であるとか、発展途上国の病気だとか思う人もいるかもしれませんが、1998年にWHOが、全世界での感染症との新たな闘いを呼びかけています。

過去30年間、感染症に関しては多くの発見がありましたが、その中に次のような非常に重大な発見があります。すなわち、感染症にかかった人が、その治癒の後にも保菌者であり続けるという現象、パーシステンシーと呼ばれる現象です。このパーシステンシーには、まだ不明な点が多いのです。長期間、しかも治癒後にもかかわらず、ウイルスなどが人体の中に存在し続け、ほかの人に感染することがある。これは深刻な問題です。

大里博士はこのパーシステンシーに対し、1つの答えを出しました。環境破壊の仕業というのがその答えです。環境変化がウイルスにも、さらには人間の免疫システムにもかなりの影響を与えていると大里博士は言っています。そのとおりだと思います。実際、数千のウイルス性、バクテリア性の感染症の全てで、このパーシステンシー現象が見られます。世界中の医者、専門家が感染症の治療に当たって、パーシステンシーの発生する可能性をいかに低下させるか、頭を悩ませています。

バイオ・ノーマライザーがウイルスを抑制するメカニズム



ウイルス負荷を調べるトランスアミナーゼの変化に関するデータを紹介したいと思います。治療前と治療後のウイルスの数を計測したとえばわかりやすいでしょう。結論から言えば、バイオ・ノーマライザーの効果は目覚ましいものでした。ウイルスの生存期間を短くしたのです。この結果は重大であり、有望であると言えます。

この1枚目のスライドでは、バイオ・ノーマライザーがウイルスを抑制するメカニズムが示されています。バイオ・ノーマライザーはマクロファージに影響を与えます。さらにはインターフェロンという、つまりウイルスから人体を守る特別のたんぱく質に影響を及ぼすのです。血液細胞がインターフェロンを合成するのですが、その合成能力を大幅に活性化させる効力をバイオ・ノーマライザーは有しているのです。

② 全血 (IU/ml) における IFN- γ 産生に対する BN 投与 (6g/日) の効果
Effects of BN administration (6g/day) on INF- γ production in whole blood (IU/ml)

Group	n	Duration of BN administration (weeks)		
		0	2	4
Healthy donors	11	26±22	38±38	51±36
Liver malfunctions	14	21±6	42±27	79±29*

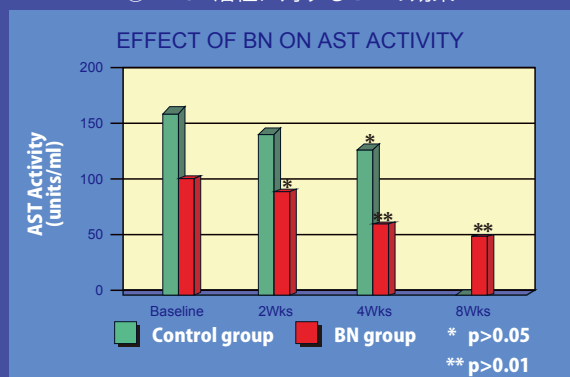
*p<0/05

Santiago et al., Neuroscience, 1994

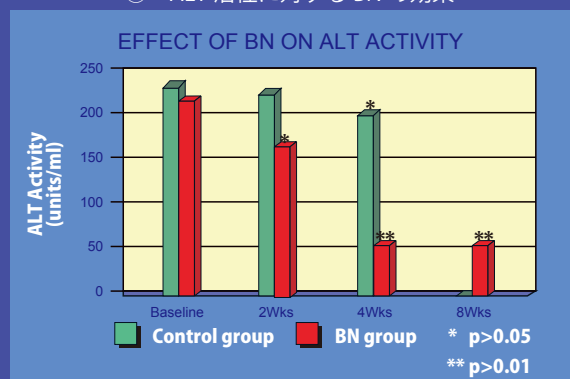
③ インターフェロンステータスに関する BN 投与の効果
Effect of BN administration on the interferon status

Parameter	Number of patients	Changes in the interferon status
Interferon in serum	8	increased
	0	decreased
	7	no change
Alpha-interferon production by leukocytes	7	increased
	4	decreased
	4	no change
Gamma-interferon production by leukocytes	9	increased
	3	decreased
	3	no changes

④ AST 活性に対する BN の効果



⑤ ALT 活性に対する BN の効果



スライド②ではバイオ・ノーマライザーを使用した場合と使用しない場合には、はっきり差を示しました。血液細胞がインターフェロンを合成するのですが、その合成能力を大幅に活性化させる効力をバイオ・ノーマライザーは有しているのです。

③のスライドは各種の血清インターフェロンへのバイオ・ノーマライザーの影響を調べたものです、アルファでもベータでもガンマでも、全てのインターフェロンにバイオ・ノーマライザーが作用することがわかりました。

④スライドは臨床実験によって患者の症状が大幅に改善されていることがわかります。この実験では、アスパラギン、トランスアミナーゼのレベルが測定されました。緑色がバイオ・ノーマライザーを服用しなかったグループ、赤色がバイオ・ノーマライザーを服用したグループです。バイオ・ノーマライザーを服用すると、細胞膜の破壊が減少することがわかります。アスパラギン、トランスアミナーゼのレベルが低下していることで、それが証明されます。これは極めて肯定的な現象です。

⑤のスライドはALTと専門家が呼ぶ、肝臓でのみ生成するトランスアミナーゼのレベルを測定したものです。このレベルが高ければ高いほど、肝炎の症状が重いのです。実験結果をごらんください。2日後、4日後、8週間後と日を追って調べたところ、ALTのレベルが下がっていることがわかります。つまり、バイオ・ノーマライザーが幹細胞を再生させ、肝炎の症状を軽くしているわけです。



このレポートは1999年9月3日に岐阜県の長良川国際会議場で行われたバイオ・ノーマライザー開発30周年記念パネルディスカッション「バイオパシー理論による治療現場からの報告とバイオ・ノーマライザーの今後の可能性」をもとに作成しています。DVDの詳細は大里三旺研究所 (Osato Suno Research Institute 略称 OSRI) のウェブページをご参照ください。

http://osri.asia/lab/30th_anniversary#Redox